

2025年度 神戸市外国語大学大学院入学試験
文化交流専攻 言語コース（アジア言語演習）
解答例・出題意図

出題意図

問題Ⅰ

本問は、古典中国語を部分的に含んだ中国語の学術的文章を読解し、日本語に翻訳するための専門性を備えた語学力を測ることを目的としている。

問題Ⅱ

本問は、本文が提起する議論の中核となる箇所の要約を課し、英文の読解力を測定するとともに、文章全体を適切に要約する日本語の表現力を測ることを目的としている。

問題Ⅲ

本問は、中国語方言学の主要なテーマの一つである客家語に関する専門的かつ多面的な理解と、その知識や知見を言語化する能力を見ることで、研究遂行能力を測ることを目的としている。

2025年度 神戸市外国語大学大学院入学試験
文化交流専攻 言語コース（アジア言語演習）
解答例・出題意図

解答例

問題Ⅰ（50点）

伝統的な中国語方言学は伝統的な中国語学の構成領域であるが、しかしそれは伝統的言語学において顕著な地位を占めているわけではない。伝統的な中国語学はおおよそいわゆる「小学」に相当し、音韻、訓詁、文字の三大領域から構成される。小学は経学の従属物であり、方言学は訓詁学の従属物であった。中国の古代の学術分類試奏を体現している『四庫全書』において、方言学の著作は揚雄の『方言』ただ一種を収めるのみで、小学の訓詁の属の中に附随している。

伝統的な方言学の最初の専著は前漢末の揚雄（紀元前 53～紀元 18）の『方言』である。しかし実際には、方言を調査し記録した活動（作業）は早くも周代において高まりを見せていた。この意味からいえば、伝統的な方言学は周代において萌芽したのである。『方言』に附せられている揚雄の『答劉歆書』（劉歆に答ふる書）は、「かつて、先代（以前の王朝）の輕車に乗った使者が奏上し記録した書物が周・秦の宮室（宮廷）に所蔵された」という。漢代の応劭の『風俗通序』は、「周や秦はいつも毎年八月、輕車に乗った使者を遣わし、漢代以前の方言を調べていた」という。この二つの記述からは、周代の政府がすでに輕車にのって方言を調査する専門の官吏を設けており、調査し記録した方言資料を収蔵して保存していたことが分かる。惜しいことに、周王朝が東遷した後に、この制度は廃止されてしまった。周・秦時代の言語と方言は数多分かれていた。周王朝の統治者は政治的な必要性から、言語コミュニケーションの問題をととても重視しており、そのため、方言調査の活動（作業）を専門に（わざわざ）組織したのである。そして、方言を調査することもまた、統治者が風俗を観察し民情を理解する一つの手立てだった。しかし漢代の学者がこれらの調査が得た資料に関心を持ったのは、ただ単に訓詁の研究のためであって、言語や方言それ自体の研究のためではなかった。『答劉歆書』は、嚴君平と林閭翁孺は「訓詁を深く好み、なおかつ輕車の使いが奏上した言葉を見ていた」という。

問題Ⅱ（50点）

論述問題

問題Ⅲ

論述問題